



ANNUAL
REPORT
2018

GLO^{AL} CENTER
CENTER

ABOUT US / HISTORY

グローバルセンターはなぜ生まれたのか

GLOCAL CENTER

特定非営利活動法人
グローバル人材開発センター
略称「グローバルセンター」

※アニュアルレポート2018
では更に省略して、以下

「GC」

と表記します。

グローバルセンターを知る2つの公式

1. GLOCAL = GLOBAL + LOCAL

グローバルな視点で世界基準の意識を持ち、地域経済・社会（ローカル）の持続的な発展に情熱を注ぎ、活躍する「グローバル」な人材を育成していきたい。

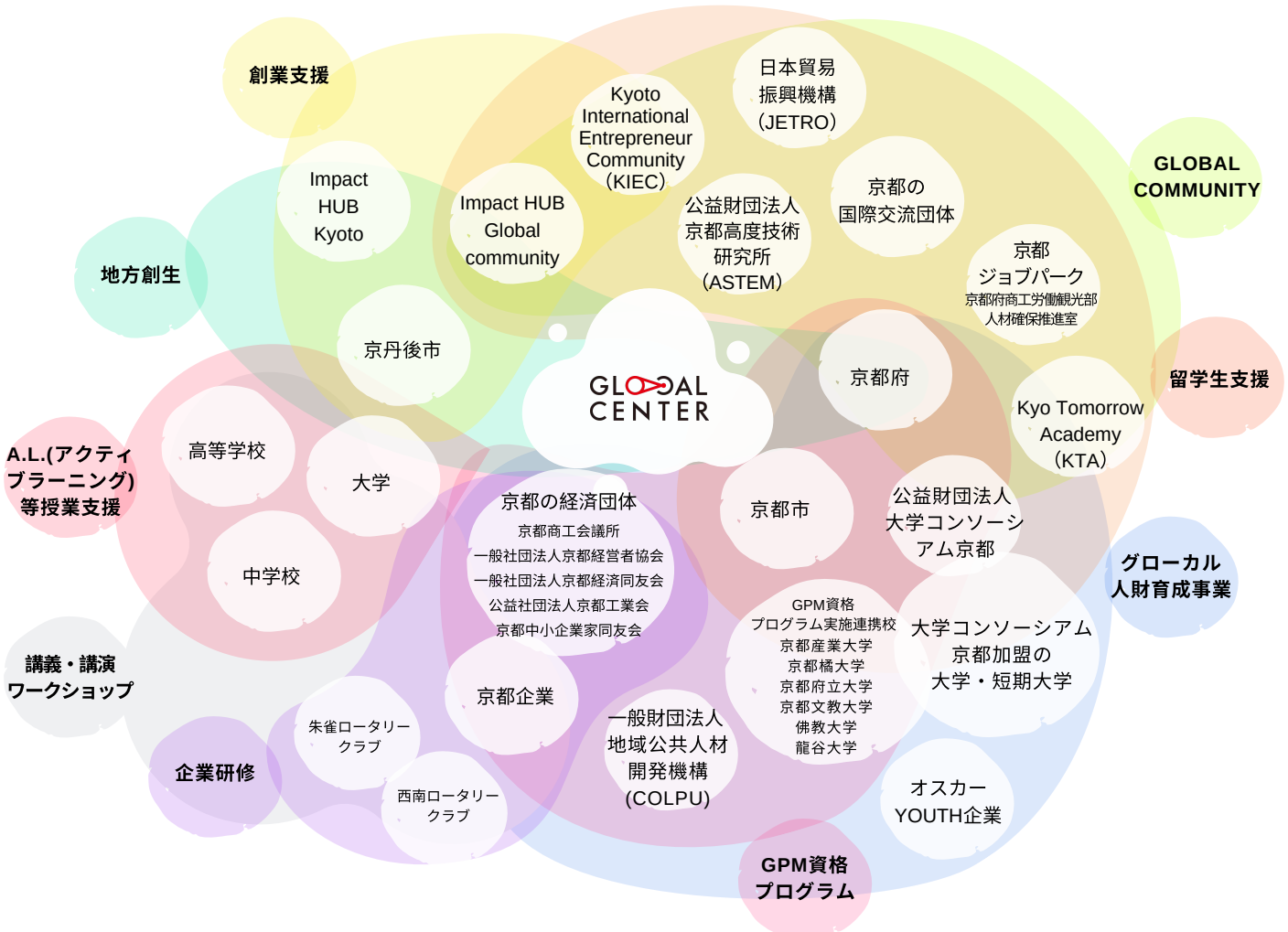
グローバル人材開発センター（以下「GC」）は、そのような想いに共感する京都の大学、経済界、および行政機関等の協力のもと、「オール京都」体制で設立されたNPO法人です。「風通しのよい社会を創る」を理念に、若者ひとりひとりの色が発揮され、自立した個がカラフルに輝くワクワクする開かれた社会の創出を目指し、2013年から活動しています。

2. "Y" × "X" = "CC"

“Y”：Young（若者）と、“X”（色んなもの）が掛け合わせられて“Creative City”が育まれる。GCは京都の産学公民が協力して進めている「グローバル人材」育成事業のプラットフォームとして、高校生・大学生と企業をつなぐプロジェクト、若者の人材育成、採用就職支援、産学公民との連携、10年後を見据えた次世代リーダー育成のための研修事業等を行っています。

「オール京都」で取り組む人材育成の現在 グローバルをとりまくエコシステム

※2018年度事業より関係する団体等を一部抜粋



団体概要

名称	特定非営利活動法人グローバル人材開発センター
所在地	〒602-8061 京都市上京区甲斐守町97番地 西陣産業創造会館2階
スタッフ	8名
業務内容	グローバル人材の育成
設立	2013年2月15日
代表理事	榊田 隆之 京都信用金庫 理事長
専務理事 /事務局長	中谷 真憲 京都産業大学法学部 教授
理事	西田 敏光 京都商工会議所 理事・会員部長 石津 友啓 一般社団法人京都経営者協会 専務理事 廣野 貴夫 一般社団法人京都経済同友会 理事 事務局長 金井 進 公益社団法人京都工業会 理事 事務局長 田島 慎也 京都中小企業家同友会 事務局長 船橋 晴雄 シリウス・インスティテュート株式会社 代表取締役 土山 雅之 土山印刷株式会社 代表取締役社長 佐野 亘 京都大学大学院地球環境学学 教授 杉岡 秀紀 福知山公立大学地域経営学部 准教授 黒宮 一太 京都文教大学総合社会学部 准教授 的場 信樹 佛教大学総合研究所 嘱託研究員 村田 和代 龍谷大学政策学部 教授
監事	前野 芳子 税理士法人まへの・前野公認会計士事務所 所長 宮木 一平 京都産業大学現代社会学部 教授

(2019年7月時点)

2018年度メディア掲載等（重複を除く）

- ・ 烏丸経済新聞
- ・ フジサンケイビジネスアイ
- ・ BSテレビ東京
- ・ NHK京都放送
- ・ 京都新聞
- ・ Radio Mix Kyoto FM87.0MHz

沿革

2011年	3月 一般社団法人京都経済同友会提言文書の策定
2012年	10月 京都経済4団体、企業、大学に所属する16名による発起人会開催 10月 産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度（GPM）の 開発事業開始(文部科学省採択)
2013年	2月 特定非営利活動法人グローバル人材開発センター設立 2月 設立記念シンポジウム開催200名参加 5月 京都府「京都ギャブパイヤー事業」受託（3年間） 11月 京都市「『人材育成型』ソーシャルビジネス等育成事業」受託（1年間） 12月 国際シンポジウム「OECD-LEEDプログラム協働研究プロジェクト地域 再活性化のためのスキル訓練環境」共同開催（於：京都）
2014年	1月 京都府「平成26年度京都府知事選挙啓発業務」受託（2ヶ月間） 2月 「第1回グローバル人材フォーラム」開催250名参加 10月 OECD-LORC主催国際シンポジウム「京都アライアンスとレジリエントな 都市圏」共同開催（於：フランス）
2015年	2月 「第2回グローバル人材フォーラム」開催280名参加 5月 京都市「京都企業と連携した次代の京都を担う人材の育成事業」受託 （継続中） 5月 京都市「屋外広告物印象評価等調査業務」受託（1年間） 10月 大学コンソーシアム京都「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実 事業」受託（継続中） 11月 留学生の就職・採用支援事業開始（大学コンソーシアム京都協力） 12月 職業紹介事業許可の取得
2016年	2月 「第3回グローバル人材フォーラム」開催300名参加 3月 地域職能資格グローバルプロジェクトマネージャー（GPM）資格発行開始 4月 仮認定NPO法人制度における「仮認定」の取得 4月 京都府「ワーク・ライフ・バランス推進企業宣言」登録 9月 内閣府「地方創生カレッジ事業」受託（2年間） 11月 「CSOアワード2016」20周年特別賞・オーディエンス賞受賞 12月 異業種合同研修（GLOCAL SHIFTCAMP）開始
2017年	1月 「経済産業省主催キャリア教育アワード」コーディネーターの部 奨励賞受賞 2月 「第4回グローバル人材フォーラム」開催300名参加 3月 「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度（GPM）の開発 ・運用事業」文部科学省採択期間終了（連携6大学と継続中） 4月 京都市「来日直後の留学生を支援するウェルカムパッケージ事業」受託 （1年間） 6月 京丹後市「京丹後未来ラボコーディネート事業」受託（継続中） 8月 京都市「留学生の就職支援・マッチング事業」受託（継続中）
2018年	2月 「第5回グローバル人材フォーラム」開催230名参加 6月 京都市明治150年事業「明治の精神と知恵を今と未来に活かす事業」受託 （7ヶ月間）
2019年	2月 「第6回グローバル人材フォーラム」開催150名参加 4月 認定NPO法人制度における「認定NPO法人」の取得

(2019年4月時点)

HOW DO WE ACHIEVE OUR VISION / グローカル

RESOURCES 資源

WHAT WE INVEST

人的資源

会員
学生事業部
社会人事業部
理事
インターンの受け入れ
Impact Hub Kyoto
GCスタッフ
各種人的ネットワーク

経済的資源

委託金・助成金
事業収益
寄付金・会費

知的資源

プロジェクトベースドラニング
(PBL/課題解決学習)
アクティブラーニング (A.L.)
ファシリテーション
グラフィックレコーディング
研究調査 etc...

ACTIVITIES 活動

WHAT WE DO

産学公民の連携事業

多様なコミュニティや
アクターが結びつく
場の創出

学生のアイデアを
取り入れた
まちづくりや企業研修

企業人×大学生×留学生
×高校生×市民×外国人
×公務員×教職員×研究者

活動実績

【2018年度アニュアルレポートもくじ】

- p01 グローカルセンターはなぜ生まれたのか
- p02 団体概要／沿革
- p03-04 グローカルセンターの目指す未来
- p05-06 MEET THE GC STAFF
- p07 大学間連携協働教育推進事業
「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発・運用」
- p08 京都市受託事業
「京都企業と連携した次代の京都を担う人財育成事業」
- p09 異業種合同研修プログラム
「GLOCAL SHIFT CAMP」
- P10 企業における人材育成研修・セミナー
- p11 留学生の就職・採用支援事業
- p12 京丹后市受託事業
「『京丹後未来ラボ』コーディネート」
- p13 高校アクティブラーニング授業
「人間力講座」コーディネート事業
- p14 スタッフの特性を活かした事業
- p15-16 グローカルセンターを支えてくださる皆様へのお礼とご報告
- p17 ALL THE LOVE FOR GLOCAL
- p18 ACCESS
- p19 賛助会員ご入会・寄附のお願い

2018年度活動実績

#ファン大集合！
グローバルファンの集い

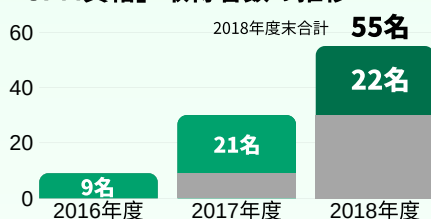
参加者 166名

学生 47名
社会人 119名

★★年4回開催★★

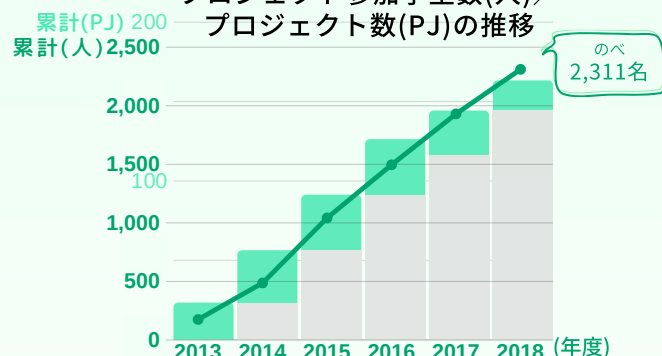
#社会の一線で活躍できる力を可視化する地域職能資格

「GPM資格」取得者数の推移：



※取得開始年度：実施大学
(2016年度～：京都産業大学、
京都文教大学、佛教大学、龍谷大学)
(2017年度～：京都府立大学)
(2018年度～：京都橘大学)

プロジェクト参加学生数(人)／プロジェクト数(PJ)の推移



参加者数 175名 312名 555名 454名 435名 380名
実施PJ数 23PJ 33PJ 35PJ 25PJ 28PJ 19PJ

センターの目指す未来

OUTCOMES-IMPACTS

成果・インパクト

初期成果

各セクターの枠を超えた
交流が生まれる



個人・コミュニティ・企業・社会
のハブとなるグローバル人材
の輩出を通じた、
「多様な人々が集まる場」の創出



企業/組織内

- ・組織内コミュニケーションの円滑化
- ・部署を超えた連携
- ・年齢や性別、国籍に関わりなく協働できる場づくり

企業/組織外

- ・組織を超えた恒常的な連携（企業×企業、企業×大学、行政×大学、企業×研究機関など）
- ・異業種との対話
- ・社会へ参画する個人の倫理的責任、また権利を認識する
- ・国外の団体との連携

中期成果

個人と社会・企業が
有機的につながる

個人と社会

- ・創造的な企業・行政×学生コミュニティの定着
- ・様々なアクターが教え、学びあう風土の確立
- ・異業種のコラボレーションが生まれる
- ・社会課題を自分事化してアクションに落とし込む

個人と企業

- ・個を尊重し、その能力を活かす組織構造ができる
- ・学びのプロセスとしての失敗を奨励し許容する風土が根付く
- ・社内/社外問わず、イノベーションを先導する
- ・変化する社会へ適応する
- ・あらゆる人々を包摂する社会的想像力を持つ
- ・社会課題の解決を会社の使命とすることがスタンダード化する

長期成果

誰もが活躍できる社会

- 個人の自由と尊厳をより大切にす企業
- 多様なライフスタイルに対応できる職場
- 若者が未来に希望を持って生きる社会
- ひとりひとりがカラフルに輝く開かれた社会
- 国籍・文化の違いを超えて協働できる社会

あなたにとっての
風通し良い社会
とは何ですか？

#学生主体の学びの機会創出
実施プロジェクト数

22 PJ

参加学生数（うち留学生）

380名(47名)

※A.L./ PBL支援含む

#学びの場のサポート

A.L. / PBL支援の実施数

9講義・講座

受講者数

大学生（うち留学生）

94名（31名）

高校生

202名

#学びの機会創出への参画

企業×大学生の連携PJ

実施企業・団体数

14社

#多様性の中で楽しく学び合う
ワークショップ

開催回数

5回

参加者

46名

・社会人 31名

・学生 15名

#寄ってたかって「グローバル人材」を育てる
成果報告会参加者：

229名

すごい！
採用・就職会議
vol.03

75名

・社会人 47名
・学生 28名

第6回
グローバル人材
フォーラム

154名

・社会人 75名
・学生 79名



MEET THE GC STAFF



事務局長代理
ACTING DIRECTOR
仲田 匡志
MASASHI NAKADA

◇ 略歴

沖縄県那覇市生まれ。幼少から高校までを沖縄～名古屋～大阪で過ごし、大学から京都へ。学生時代からアクティブラーニングの研究・実践を行う。行政・地域連携のプロジェクトのリーダーをつとめる。2014年4月よりグローバルセンターに入職。学生と企業のPBLなど産官学の連携活動を進めるとともに、留学生の就職支援事業を担当。2018年より事務局マネジメントのため事務局長代理に。

◇ 2018年度主要業務

事務局のマネジメントと共に、留学生の就職支援事業を担当。外国人材の採用・就職にかかるセミナーや交流会の企画・運営を行う。また、学生のキャリア支援も積極的に展開し、「自分の好きを言葉に、行動に」をテーマにアドバイスを行う。その他、イベント等での司会、コーディネーターを担当。

◇ GC外のお顔

株式会社美京都(みやこ)の教育事業アドバイザーとして、10代の起業家育成にも携わり、次代を創る若者世代の人材育成に力を入れる。



専務理事付渉外
CO-FOUNDER
行元 沙弥
SAYA YUKIMOTO

◇ 略歴

88年大阪生まれ。小中はDANCEに明け暮れ、高校では英語を専門に学び、遅れた反抗期で家出。大学で1年休学し、7ヶ月間中国で多様な文化にもまれ現地で日給1000円で働きながら生きる。世界の中で自分の視野の狭さに驚愕し、帰国後、大学で教授20名に協力を仰ぎ複数学部混合の学生研究会を立ち上げる。就活に対しての疑問をきっかけに、大学職員を経てGCを設立することに！

◇ 2018年度主要業務

- ・産業界と連携し、実践的なカリキュラムへの改革企画立案
- ・学生ともコラボし"変化を楽しめる人を増やす"企業研修、異業種交流セミナーのプログラム企画立案、運営進行
- ・人材育成に係る国内外の先進事例調査のコーディネート
- ・個人や組織が突破するためのきっかけづくりやPR、etc.

◇ GC外のお顔

Angelaと呼ばれたり魔女と呼ばれたり。Impact HUB Kyotoのビジネス開発も兼務し社会起業家が集う会合に毎年参加させてもらっています。今は、ASIAのB-corp企業の動きに興味あり！ARTとお酒と本が好き！



コーディネーター
COORDINATOR
外崎 佑実
YUMI TONOSAKI

◇ 略歴

青森県弘前市で育ち、地球と地方都市の未来に役立つ学びを求めて京都周辺に南下。主にマーケティングとデザインと伝統を好んで学ぶ。分野を超えた面白い交流を求めて活動していたところ、2015年秋にGCスタッフに拾われ仲間になる。広告業、行政・法律事務経験あり。

◇ 2018年度主要業務

- ①事務局業務：大学間連携共同教育推進事業「GPM資格の開発」（資格発行事務、成果報告会「グローバル人材フォーラム」、資格プログラム管理、幹事会運営にかかる事務）
- ②コーディネート業務：「京丹後未来ラボ」、高校生向けアクティブラーニング「人間力講座」
- ③その他：グラフィックを使った可視化のお仕事（対話促進／記録／講師）、可視化系の庶務・工作。

◇ GLOCAL外のお顔

気が付くと青森のファンづくりをしている。夏になると津軽の「ねぶた祭り」を楽しむイベントを開催。グラフィッカーとして会議や講演会、イベント等の可視化のお仕事を行政、企業、個人から受けることもある。#人生を豊かにする祭り



コーディネーター
COORDINATOR
山田 堃
HILA YAMADA

◇ 略歴

京都市出身。某カニ料理屋勤務、6カ月の渡英、外資系高級ホテル勤務、3カ月の欧州1人旅、美大短大生2年（日本画専攻）、アート複合施設ディレクターアシスタントを経て、ひよんなことから2017年七夕にGCに入職。

◇ 2018年度主要業務

外国人留学生就職支援事業一連、各種企業研修の企画、運営を担当。また企業の英語研修において講師を務める。その他にも、Kyoto International Entrepreneurs Community、ファンの集い企画・運営、毎年2月開催の人材フォーラム企画・運営補助をしつつ、アニュアルレポートの編纂も担当。

◇ GLOCAL外のお顔

Pechakucha Night Kyotoの司会を務める。また京都屈指の有名カクテルバーL'escamoteurにも週3日勤務。時にはアート・デザイン系イベントでの通訳や司会業も。生まれ育ちも日本だが、GLOCAL外では英語が主要言語のため日本語が怪しい。京都の外国人コミュニティの橋渡しをするべく日々精力的に活動中（呑み歩いているだけか）。



個性豊かな自由人が集まるGCですが、創業時以来、掲げてきたのはサッカー型の組織。それぞれFW、DF、MF的なイメージで役割分担をしています。決め事だけ皆で確認しておいて、フィールドに出ると、指示を待つのではなく、各自の判断とアイコンタクトで動きます。ただし各プレイヤーが超個人的過ぎて、むしろサファリパーク化?!



財務主任
MINISTER OF FINANCE
大橋 かなで
KANADE OHASHI

略歴

京都市出身。金融機関入行、個人資産運用アドバイザーとして従事。大学の経理部にて会計、経理、補助金関連業務を担う。2012年同大学内当センター設置準備室へ異動、設立準備に携わる。2013年当センター財務担当として入職。2018年より財務主任に就任。

2018年度主要業務

総務・人事・経理業務全般から、市や大学等受託事業の収支管理、寄附業務、認定NPO法人運営事務、イベントの受付、運営補助業務等と幅広い。日々、GCのお財布とにらめっこし、やりくりしながら死守している。理事や事務局長が経営判断しやすいよう、財務報告のみならず提案等も積極的に行う。様々な事業が同時並行で輻輳して進んでいる中、常に全体の動きを把握し、総体的に俯瞰して判断できるよう、また事業とその担当者が円滑に動くように細やかなサポートを心がけている。

GC外のお顔

お花とバイオリンが好き。大学時代、オーケストラでバイオリン演奏していた過去も。たくさんのお花に囲まれフラワーアレンジメントを楽しんでいる時が幸せ！



ファシリテーター
FACILITATOR
肥後 祐亮
YUSUKE HIGO

略歴

京都宇治育ち。小学校免許取得後、塾講師1年、ユースサービス協会勤務2年、ゲストハウス、バー住込み。2013年後半GCでアルバイト勤務。8か月のアジア一人旅の後、2015年1月よりGC週4日入職。

2018年度主要業務

- ① GLOCAL SHIFT CAMP (異業種合同研修プログラム)の企画、運営
- ② コーディネート業務: 「京丹後未来ラボ」、高校向けアクティブラーニング「人間力講座」
- ③ 他: グラフィックを使った可視化のお仕事 (対話促進/記録/講師)、その他内野と外野の間の動き。

GC外のお顔

10年近く京都周辺コミュニティ巡りをしておりソーシャル界隈で「タオルマン」として知られる。グラフィッカーとして会議や講演会、イベント等の可視化のお仕事を行政、企業、個人から受ける。「子どもに大人は何を残せるか?」という問いから、平和、貧困、教育、学習、組織、持続可能な暮らし、といったキーワードを中心に活動中。



コーディネーター
COORDINATOR
木下 京介
KYOSUKE KINOSHITA

略歴

大学生時代からインターンシップ生として企業と学生の連携プロジェクトをコーディネート。大学卒業後、GCに正式に入職。また、WorldShift Communicatorとして「持続可能で平和な地球」を目指してサステナブルを広める活動を行う。

2018年度主要業務

- ・ 京都企業と連携した次代の京都を担う人材の育成事業 (略称: グローカル人材育成事業)
- ・ 留学生就活コミュニティ「Career Cafe Compass」
- ・ 留学生の就職支援・マッチング事業
- ・ 高校授業「人間力講座」

GLOCAL外のお顔

WorldShift Communicatorとして「持続可能で平和な地球」を目指して個人の変革を促すワークショップを実施。また、駆け出しのファシリテーターとしても「Sustainability」をキーワードに活動を行う。WorldShift communicator、GPM (グローバルプロジェクトマネジャー)、初級地域公共政策士取得。



コーディネーター/総務
COORDINATOR
GENERAL AFFAIRS
岩崎 由奈
YUNA IWASAKI

略歴

京都市出身。犬を2匹飼っているネコ好き。大学時代はゼミの活動で祇園祭の鉦の運営に携わり、大学卒業後は、ザ・普通の社会人。ある日をきっかけに「何のために働いているのか」と考えるようになり、ひよんなことから2018年に「きっかけづくりの場を創出したい」と思いGCに入職。

2018年度主要業務

学生事業部のコーディネーター、総務を担当。また、新しいコンテンツとして「リアル脱出ゲーム×研修」を開発中。2018年度は、『何もかもが初めて』の中、明治150周年事業のPJを担当し、学生達が何かを見つけるきっかけの機会の場を創出。その他学生PJのサポートも。総務担当として、GPMやイベント、委託事業のサポートなど様々な事務補助を務める。

GLOCAL外のお顔

晴れた休みの日には、友達とドライブに。夏は、大学のゼミでの活動をきっかけに毎年宵山期間は祇園祭の鉦の運営へ参加。

INTER-UNIVERSITY COLLABORATIVE EDUCATION PROGRAM

大学間連携協働教育推進事業
「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発・運用」

COORDINATED BY YUMI TONOSAKI



社会人になる前に、より実践へ

「GPM資格」取得者の声 <http://glocalcenter.jp/gpm>



FOCUS

「平成」最後と「明治150年」という節目の年の成果報告会『第6回グローバル人材フォーラム』は歴史ある京都国立博物館で開催しました。

第1部グローバルコンペティションには産・学・公の各セクターから審査員を迎え、第2部には発表と対話のワークショップを設けました。今年も学生、連携先企業を含む京都企業の方、地域の方、また、GC卒業生（「社会人事業部」）やGCのイベントや研修への参加者、その他事業等GCと関わる様々な方が加わり、セクターや年代を超えた多様な交流が生まれました。社会人年目を迎える資格取得者も出ている今、社会に出て活躍する若者同士のコミュニティづくりにも力を入れています。



◆目的

本事業は、学生と京都企業との連携の取り組みや大学での専門領域で得られた学生の学び・成長を、資格という形で可視化し、セクターの壁を超えて社会に価値を共有することで「よってたかって若者を育てる」ことを促進するものです。また、教育改革だけに留まらず、採用改革をも視野に入れ、企業と学生をシームレスにつなぐことで地域経済・社会を支えていく志のある人材の育成を目指しています。

「GPM（グローバルプロジェクトマネジャー）資格」とは？

経済界・企業が求める人材、特に京都やその近隣企業の将来の幹部候補になりうる「グローバルな視点で物事を考える能力を兼ね備えつつ、地域経済・社会（ローカル）の持続的な発展に情熱を注ぐ人材に求められる能力を具体化した地域職能資格です。

◆2018年度活動概要

GPM資格プログラムを実施する大学と連携し、GPM資格プログラムの実施、資格発行、イベントの実施等を行いました。GCは連携事業の中で①GPM資格発行、②グローバル人材PBLのコーディネート・運用、③グローバル人材育成全般の支援、④連携大学・団体の幹事会事務局（平成29年度～）を担っています。

※GPM資格プログラムを実施する大学：京都産業大学、京都橘大学、京都府立大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学／社会的認証機関：一般財団法人 地域公共人材開発機構（COLPU）

（本事業は京都産業大学を主幹校として始まった文部科学省採択事業であり、教学改革の取り組みです。平成24～28年度における文科省の補助期間を終え、平成29年度からはGCが事務局機能を引き継ぎ事業を継続しています。）

◆成果

- 2018年度GPM資格取得者：25名（累計55名）
※「GPM資格取得者数」はp.03-04をご参照ください
- 連携校幹事会の実施：年間4回

- 成果報告会『第6回グローバル人材フォーラム』の開催
実施日：2019年2月22日(金)
来場者数：154名（学生79名 社会人75名）
出場チーム：京都産業大学、京都橘大学、京都府立大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学、グローバルセンター学生事業部

グローバル人材フォーラムの詳細はライブラリーコーナー≫”活動報告書”から <http://glocalcenter.jp/library/>

第6回
グローバル人材フォーラム
実施報告書



GLOBAL HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT PROJECT

京都市受託事業「京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業」

COORDINATED BY KYOSUKE KINOSHITA



FOCUS 関係性を重視したチーム作り

ダニエル・キム教授の「成功循環モデル」をもとに、信頼をベースにした「関係性づくり」を行っています。関係の質（信頼関係）が思考、行動に影響し、結果の質につながるという成功循環を生み出すには、チーム間の関係だけでなく、スタッフと学生との関係が重要です。

一人ひとりが学び、挑戦するためには、安心安全の環境が必要です。そして安心安全の環境は「信頼」がなければ生まれません。誰かに目をかけてもらっているという安心感が信頼に、信頼が安心安全の環境につながります。GCでは、「チェックイン」という手法で毎回欠かさず、自分の近況（事柄+感情）を共有してからミーティングを始めます。また、ミーティング中は「話すこと」よりも「聴くこと」を重視することで、話を聞いてもらえる安心感を大切にします。自分の思っていることや感じていることを素直に話せるからこそ、その人ならではの面白い意見や考え方が出てくることをプロジェクトを通して感じます。



◆目的

大学や国籍の枠を超えた留学生を含む学生を、グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持った「グローバル人財」として育成するとともに、学生と企業がお互いを知る機会を創出することが目的です。具体的には、多様な主体からなる学生チームによる、京都企業との骨太な連携プロジェクト（PBL型）を実施しています。このプロセスを通じ、明日の京都を支える人財を育成します。

- ① グローバル人財の育成
- ② 学生と企業の出会いの機会創出
- ③ 学生へのグローバルかつ実践的な協働経験の創出

◆2018年度活動概要

企業が抱えている課題を、企業とグローバルセンターがともにプロジェクト化し、それに、大学の垣根を越え集まった、留学生を含む学部生・大学院生の混合チームで取り組みました。プロジェクト開始時には、京都企業に関するレクチャーを実施し、企業を見る目を養い、日々の企業との連携から京都企業の魅力を体感し、知る機会が創出されるよう、プロジェクトの設計を行いました。

学生はプロジェクトを通じて、社会における実践的な力を養い、連携企業についての知識はもちろんのこと、「働く」や「仕事」について深く学び、考えるマインドを身に付けました。

<プロジェクト設計における要素>

- ・ 社会人としての基礎力、ジェネリックスキルの養成
- ・ 「企業」「仕事」「働く」の本質を捉えながら熟考
- ・ ダイバーシティ（多様性）を活かすグループワーク

<特徴>

- ・ PBL型プロジェクト（企業からの課題に取り組み、提案）
- ・ 5名程度の日本人学生、留学生の協働チームを構成
- ・ 企業へのインタビュー、京都企業に関するレクチャーを実施

◆成果（参加人数・プロジェクト数）

- 2018年度 参加学生 70名（日本人学生 55名 留学生 15名）
実施プロジェクト数 11プロジェクト
- 2015～2018年度累計：参加学生297名（うち留学生 65名）／50プロジェクト

連携先・活動内容などプロジェクトの詳細はライブラリーコーナー「活動報告書」から
<http://glocalcenter.jp/library/>

平成30年度
グローバル人財育成事業
年次報告書



ORIGINAL EMPLOYEE EDUCATION PROGRAM "GLOCAL SHIFT CAMP"

異業種合同研修プログラム「GLOCAL SHIFT CAMP」

COORDINATED BY SAYA YUKIMOTO & YUSUKE HIGO



FOCUS

GLOCAL SHIFT CAMPの特徴はOB/OGがプロボノサポーターとして、積極的に関わってくれるところ！

今回は、学生時代にGLOCALで活動し今は社会人になった門前君がDay3に参加し、レポートを書いてくれました。これも参加者がシェアし、持ち帰りやすいひとつの工夫です。

右下のQRからは是非彼が書いた記事を読んでください！▼

株式会社大垣書店 総合企画部
課長代理 大垣 守可さん

ここでは立場に関係なく本音でフラットに意見交換・質問ができ、話を聞ける場づくりを体験できます。それを再現可能なかたちで社内に持ち帰るサポートは大きく、旧来の若手研修に「教え学び合う」という要素を加えシフトさせました。個人的には「同じ悩みを抱えた異業種の人」はもちろん、それを解消しようとするスタッフと密につながれる環境が、その後の変化をもたらす時に圧倒的に生きています。

グローバルシフトキャンプ2018
(第3期)Day3 どうすれば人と組織は変わるのか (前編)



◆目的

急激に変化する社会に対応するには、創発型の個人を結集できる組織が必要です。「そのような個人を企業はどうすれば育成することができるのか」「そのためにはどのような組織変革が求められるのか」企業の若手社員が、異能のチェンジメーカー（講師）からのレクチャーを受け、異業種間の対話の中で、自らやるべきことを見出し、参加者自身、そして社内に「新しい風」をもたらすための場です。

◆2018年度活動概要

主に20～30代を対象とした若手・中堅社員向けに、「自己変革」と「共創」を鍵として、異業種のメンバーが互いに交流しながらワークショップ形式で学びを深めます。

- Day1 8/18 【起】 場とプロセスの重要性、個人ができること
- Day2 8/25 【承】 仕事の中でなぜ遊びが必要か？（講師：福本真士氏）
- Day3 9/1 【転】 どうすれば、人と組織が変われるのか？（講師：武井浩三氏）
- Day4 9/8 【結】 社内に持ち帰る気づき・学びの共有

今年も、金融業界からアパレル業界まで幅広いメンバーが！学生も交じり、働く中で自分自身の課題や、チーム・組織の課題を持ち寄り「対話型組織開発」の考えや新しい組織について知見を深め、どのように自社で実践するかまで話し合いました。

◆成果

研修直後の参加者からは「『自分から変わりたい』と思えるようになった」という声も。こうして参加した人が社内に持ち帰りやすい状況と社内でも何かアクションを起こす時に仲間をつくりやすい状況を意識しました。

これからは、毎年継続して参加して下さる企業さんを大切にしつつ、初めての企業さんにも積極的にアプローチしてもらえようPRを工夫します！

#組織を超えて学び合う、
実践者のコミュニティ
"GLOCAL SHIFT CAMP"
2018年度参加者
28名／15社

参加学生 2名
プロボノ 2名

HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT SEMINARS FOR COMPANIES

企業における人材育成研修・セミナー

COORDINATED BY SAYA YUKIMOTO, MASAHI NAKADA & HILA YAMADA



FOCUS

「あ～楽しかった！面白かった！」という言葉ほど、うれしいものはありません。研修＝スーツ着用！スキルアップに集中...だけでなくPlayful Learning "遊び心"をキーワードに義務ではなく学ぶ楽しさを実感してもらうことを大切にしています。終了後の受講生の行動やマインド(心の在り方)の変化こそが私たちの成果なので、私たち自身からその変化を生み出せるよう心掛けています。実際に研修がきっかけとなって、アクションに変化が生まれた受講生もたくさんいます。GLOCALに関わる大学生も、複雑で決して簡単ではない「組織」や「社会」のリアルに触れ、ここでしかない学びを得ています。社会人は次世代を担う学生の感性、世界基準で何が起きているのかを視野に入れ、改めて自分の組織や仕事を見つめ直します。このこのプロセスが風通しのよい組織や働き方を創る1歩だと信じています。"楽しく"新たな風に触れ、変わり続ける！シンプルに、遊ぶように学び、楽しみながら働く大人が増えたら、社会はもっとワクワクすると思いませんか？)



◆目的 — WORLD SHIFT,WORK SHIFT,LIFE SHIFT

人生100年時代において、大学を卒業してからも新しいことを常に学び続け、個人や組織が変化・変容し続けることが求められている時代。

- ・社会に「働きながら学び続ける」ワクワクした大人の背中を増やすこと
- ・本質的な問題を見据え、重要な問いを立てられる「個」が自律的に動くチームや組織を増やすこと。
- ・多様な個が、チームや組織の中で個人の「アクション」から安心安全の場を自ら創り出すこと

以上を目的に、社員研修・セミナー事業を行っています。

◆2018年度活動概要

GCの研修の特徴は、社会人に交じり学生が参加することにあります。学生との対話を通じ、時代の感性を獲得しながらテーマに基づいてプレゼンをしたり、あるときには学生を部下に見立てマネジメント実践をしたり。社会人が学び続けるためには学びを促進する環境が必要ですが会社の中にそうした環境があるとは限りません。GCでは「リアルな学び」や「世界の潮流」「次世代の感性」に触れられる環境を、企画運営しています。

<2018年テーマ>

- ・「仕事の中で、なぜ遊びが必要か？」
- ・「どうすれば、人と組織が変われるのか？」
- ・20代～50代交流型 「ちがい」を面白いがる力

◆成果

参加者総数 390名 (73社)
実施研修数 10回 (3社)
(医療法人奉優会/京都信用金庫/株式会社ケービデバイス)
実施セミナー数 8回 (70社)

参加者の声

- ・感性が磨かれ、枠にとらわれなくなった
- ・これからの組織について考えるきっかけになった
- ・違う価値観の人と接する機会が増えた
- ・学生と接し、部下に色々話を聞くことが増えたなど、たくさんの“気づき”が共有されました。

NEW



京都経営者協会
×GLOCALコラボ
マインドチェンジ
セミナーを3回実施
しました！

EMPLOYMENT&RECRUITMENT SUPPORT OF FOREIGN STUDENTS

留学生就職・採用支援事業

COORDINATED BY MASASHI NAKADAK, KYOSUKE KINOSHITA & HILA YAMADA



WORK in KYOTO
ハタ洛
留学生の就職支援
マッチングサイト

JOB SEARCH

「ハタ洛 HATARAKU」 WEBサイト <https://hataraku.city.kyoto.lg.jp/>



FOCUS

数年の留学生就職支援活動を経ることで、より問題が細分化され明確に見えるようになってきました。

他の能力があったとしても、日本語が拙い留学生を受け入れ、働く中で学ぶ環境を提供できる余裕のある企業側が極めて少ないこと。日本語が達者で難しく就職をしても、社内の文化的相違に対する許容度が低いために定着率が上がらないこと。経済成長に伴った、国内の4割近くを占める中国人留学生の質の変化。どれも、原因が他側面に及ぶ根の深い問題です。労働人口を外国人材に頼らざるを得ない状況が今後間違いなく深刻化していく日本において、移民の受け入れ、活用は改善が急がれる課題です。「文化」をどう認識し、乗り越えるのか。とてつもなく難しい変化を迫られていることを実感する事業です。

NEW STAFF!



中野 智仁 (なかのともひと) です。関西学院大学卒業後、中高層建築・施工管理職、ウェディングのフラワーコーディネーター、新卒採用のキャリアアドバイザーを経てグローバル人材開発センターに入職しました。留学生を含む学生の採用の在り方を変えていきます！

◆目的

近年、京都では外国人留学生が増加し、日本・京都で就職を希望する留学生が増えてきました。また、企業においても外国人材の採用ニーズが高まり、新たな在留資格が設けられるなど、よりグローバルな組織の機運が醸成されています。

その一方で、日本学生支援機構の調査によると、就職希望者の内実際に日本国内で就職した留学生は3割程度という結果があります。そのような状況を改善するために、留学生の就職の選択肢を広げ、ミスマッチを回避し、留学生と企業にとって幸せなマッチングを目的とし、京都市と大学コンソーシアム京都からの委託事業を中心に、京都市の留学生就職・採用支援のインターセクトとなるべく活動しています。

◆2018年度活動概要

【京都市委託事業】

「留学生の就職支援・マッチング事業」 & 「外国人の採用・定着支援事業」

- ・留学生と企業のマッチングサイト「ハタ洛」の運営
- ・留学生向け就職セミナーの開催 (5回)
- ・企業向け採用セミナーの開催 (3回)
- ・企業向け外国人材の活躍・定着研修 (1回)
- ・留学生と企業の交流会 (3回) 等

【大学コンソーシアム京都委託事業】

「文部科学省住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」

- ・オリエンテーションイベントの開催
- ・留学生採用実績のある京都企業訪問の開催 (2回)
- ・就職活動チームの指導・運営 (キャリアコンパス) 等



詳しくはコチラ↑

◆成果

京都市委託事業は3年目、大学コンソーシアム京都からの委託事業は5年目に入り、徐々にではありますが、留学生・企業の双方に変化の兆しが見られます。留学生側は、京都にはユニークで魅力的な中小企業がたくさん集まっており、就職先の選択肢が実は豊富にあることを認知するようになりました。企業側は、外国人材に対するネガティブな先入観(採用の手続きが大変、すぐに辞めてしまうのではないが等)により、採用を躊躇されることが多いのが現状です。しかし、本事業を通して、留学生を採用した企業や現役の留学生の声に触れることによって、事業戦略の一環としての外国人材採用の重要性を認識される企業が増えてきました。

COORDINATION OF CITIZEN'S LIFE AND COMMUNITY OF ENTREPRENEURSHIP

京丹後市受託事業「京丹後未来ラボ」コーディネート

COORDINATED BY YUMI TONOSAKI & YUSUKE HIGO



FOCUS

京丹後市内で仲間を得て移住に関わる事業を開始した方、「高級猫缶」のアイデアを商品化し京都市内でも販売開始された方、「モバイルハウス」のアイデアを早速試作してみた方、はじめは学校で呼びかけられたことがきっかけで参加したが2回目以降は自ら継続的に参加している高校生、自分のニーズを模索しに来ている方、京丹後へ移住した方、移住を考え始めた方…などなど、自分らしく楽しみ、未来ラボの雰囲気や過ごし方を共有できる多様な仲間が増えました。初めて参加する方だけでなく、継続的に参加したり、友達を連れて来るメンバーの存在が人やモノゴトの出会いの数を増やして地域内外の結びつきをより強いものにしていくと感じます。



◆目的

京丹後市では2016年度策定の第二次京丹後市総合計画「基本計画」における市政運営の重点的な取組として「若者が希望に“輝く”、『おもろい』まちづくりを進めています。若者の感性や女性の感性、また、住民だけでなく市外在住者の視点も取り入れ、市の魅力の見える化を進めるとともに若者世代の出番を増やし、新たなビジネスの創出などにつなげていくため、2017年に京丹後未来ラボが創設されました。まちづくりへの思いやアイデアの実現に向けて若者世代の交流や意見交換、研鑽、更には行動を起こす場として開催されています。

◆2018年度活動概要

2017年度（第1～7回を開催）に引き続き「京丹後未来ラボ」のプログラム企画・調整及び運営を行いました。市民と行政が協働し「京丹後型ビジネスモデル」を創出するとともに、市民目線での意見を集めることを目的として、主に京丹後市内で開催。12月は都市を超えたネットワークを広げることを目的に京都市内で開催しました。各回とも、参加者がアイデアやプロジェクトを提案する「ピッチイベント」を軸にワークショップを実施し、うち2回は外部講師によるレクチャーを実施しました。

◆成果

実施回数：8回／参加者数：114名

開催内容

第9回（6/22）新メンバーを巻き込むワークショップ

第10回（7/28）市民との未来創発ワークショップ

第11回（8/25）生活者目線のワークショップ

第12回（9/21）ビジネスモデルの可視化講座

第13回（Day1:11/10）価値観に関するレクチャー

（Day2:11/17）課題と魅力発見のフィールドワーク

第14回（12/8於京都市内）交流ワークショップ

第15回（2/24）分科会形式成果報告

第16回（3/16）ふりかえり

京丹後未来Lab
Facebookページ



@kyotangomirailab

<https://www.facebook.com/kyotangomirailab/>

シェア・応援 大歓迎!

COORDINATION OF ACTIVE LEARNING FOR HIGH SCHOOL

高校アクティブラーニング授業「人間力講座」コーディネート事業

COORDINATED BY YUSUKE HIGO & YUMI TONOSAKI



FOCUS

安心して学べる場をいかにつくるか？

生徒自身の学びを促すための仕掛けづくりとして1学期は生徒同士のコミュニケーションの機会をたくさん取りました。3学期最終授業ではそれまでの学びを手掛かりに世界と自分たちとのつながりまで視野を広げ、講演して下さった京産産業大学教授 東郷和彦先生にチーム一丸で活発な質疑応答をしていたのが印象的でした。

授業運営の円滑化については情報科の先生方によるICTの活用サポートも大きなポイントとなりました。オンラインでの情報共有（Google classroom）方法を導入したことで情報共有が効率的になり、教員同士、教員とグローバルスタッフとのコミュニケーションがより豊かなものになったと感じます。



◆目的

京都産業大学附属高等学校（KSUコース）の2年生を対象としたキャリア教育カリキュラム「人間力講座」を、通年で行っています。この講座は、若者がこれからの世界を生きていくための学びの場づくり・学生の学びの支援を通じて、自ら変化を起こせるグローバル人材の育成を目的としています。

2018年度の目標は、次のように設定しました。

- ・生徒たち自身が何をすべきか自分から考えられるようになる
- ・今後の学びのために地域とのつながりをつくる
- ・現場の先生の視点を共有し、文脈に応じたPBL実施のノウハウを一緒に育む

◆2018年度活動概要

アクティブラーニング形式で行われる講座の授業支援として、授業計画・運営・地域や講師のコーディネートを実施しました。

<テーマ>

1学期：クラス内のコミュニケーション

2学期：地域とのコミュニケーション

学校外の地域課題の発見と解決

3学期：1, 2学期のふりかえりと世界とのつながり

◆成果

先生方からは「生徒が『関係性の質』を高めた結果、他校との交流機会があったときにも、積極的にコミュニケーションをとるようになった」という旨のご報告をいただきました。また、人間力講座では「授業は参加する生徒だけでなく、先生・スタッフも同じ目標に向かって活動する授業の一員」というイメージを持って活動しています。昨年度まではグローバルセンターが主に生徒の前に立ち進捗をしてきましたが、2018年度は2学期の授業進行を先生方が実施しました。昨年度と比べ先生方が感じておられる「アクティブラーニングにどう関わるか？」についての不安が、チームとして共有され解消されてきたように感じられ、授業の中でも生徒への声のかけ方など関わり方がより増えた印象を受けました。次年度はよりクラス数も増える見込みで、これまでの人間力講座の枠組みを変えて教員チームでクラス単位で運営をしていく方向へとシフトしていきます。今までの知見をいかに共有するかが今後の課題であると考えています。

PROGRAMS BASED ON INDIVIDUAL SKILLS

スタッフの特性スキルを活かした事業

COORDINATED BY ALL STAFF



FOCUS

KIEC⇒毎回ゲストで実際に京都で外国人起業家として活躍する方や、英語のできる日本人起業家、スタートアップエキスパートが登場するのが醍醐味ですが、イベント終了後も、参加者同士がコミュニケーションに夢中で中々帰ってくれないことも嬉しいことです。

グラフィック⇒目にも楽しいグラフィック♪（を目指しています）。楽しいだけでなく、自分の状態に気づけた！繰り返されていることの構造が見えた！認識の違いが可視化されて理解し合えた！など身近なことを可視化してみても見つかる色々な気づきに会う瞬間に学びや喜びがあります。

Hila's English⇒「言わなくてもわかる」が通じにくい英語では、論理的に、明確に文章を構成しなくてははいけません。でもそうやって自分が何を伝えたいのかを徹底的にクリアしていくと、自分の「個」も他人の「個」も尊重しやすくなるんです！

その他講師・講演等依頼 12件



◆KIEC (Kyoto International Entrepreneurs Community)

近年の国を挙げての起業家支援／スタートアップ支援の拡充は周知のことであり、日本での新技術の開発や新産業の発展を強化するために、外国人起業家ビザができ、在留ビザの拡充支援策も年々進んでいます。京都市でも「国際戦略特区」の認定に向けて様々な施策が打ち出されています。しかし、税制や法律など、起業に必要となるソフト面に関する日本語以外での情報リソースは依然少ないままです。定住先としての魅力が日本人、外国人問わず高い京都では、起業に興味を持つ外国人（留学生含む）が年々増えています。外国人起業家、国際的な視野を持った日本人起業家、そしてそのような起業家たちを支援する個人、団体やシステムを作る側である行政が横断的に集い、情報やそれぞれの経験、多様なアイデアをシェアする開かれた場やコミュニティを創出するために、GCを発起人としてKIECはスタートしました。現在他団体と協働で月1回ミートアップイベントを開催し、コミュニティを創生中です。

◆グラフィックファシリテーション／グラフィックレコーディング

対話や会議の効果をより高めるために文字や絵（グラフィック）を使ってその場で話されたことや感情、雰囲気などを可視化する「グラフィックファシリテーション」や、同様に講演や対話の内容などをその場で記録する「グラフィックレコーディング」の依頼を受けています。人材育成や組織づくりという文脈から、会議をより良いものにした、講演や対話を共有したり活用できるかたちにしたい、プロジェクトやアイデア、ビジョンを練りたい、などの場面に携わるほか、学生面談、会議・相談、ヒアリング、まちづくりや教育、研修の現場など事務局の活動でも日々実践されています。また、場面に応じて実践のレクチャーさせていただくこともあります。グラフィックの活用の可能性はそれぞれの現場だけでなく、個人や組織が様々な違いを超えて対話したり、より創造的になったり、未来の可能性が広がることにつながるものだと感じています。一緒に出来ることを考えましょう。あなたの描きたい未来の話ぜひ聞かせてください。（2018年度18件実施）

◆Hila's English

Hila's Englishはその名の通り、GC職員のHilaが教える英会話レッスンです。現在地域金融機関にて、初級・中級クラスに分かれて毎週レッスンを行っています。Hila's Englishのゴールは英語を流暢に話せるようになることではありません。日常の中で異文化、異世界を一瞬でも味わってもらうこと、そしてそれをきっかけに、自発的に学習をするようになることが目的です。教材は、Youtubeの動画、インターネットの記事、各生徒の日常の私生活で起こる出来事といった毎日の生活に根付くものを使っています。現在世界で起こっていることから自分自身のことまで、英語という言語の視点から認識することによって、多角的視点の獲得、視野の広がりをもたらす、それによって日本語でのコミュニケーションの質の向上にも繋がります。

SPECIAL THANKS

グローバルセンターを支えてくださる皆様へのお礼とご報告

皆さまからいただいた温かいご支援の総額は下記の通りとなりました。

2018年度ご寄附（賛助会費含む）総額

105件 / 3,642,000円

賛助会費：3,105,000円（法人50件、個人22件） 寄附金：537,000円（法人5件、個人28件）

寄附・賛助会員（企業・団体）一覧

※2019年3月31日時点

生田産機工業株式会社 イワモトエンジニアリング株式会社 株式会社エクザム 株式会社エスユーエス
株式会社大垣書店 小川珈琲株式会社 株式会社片岡製作所 株式会社キャリアパワー 株式会社京写
京都エレベータ株式会社 京都産業大学 京都青果合同株式会社 京都精工電気株式会社 株式会社京都設備
学校法人京都橘学園京都橘大学 京都文教大学 医療法人啓信会 株式会社ケービデバイス 株式会社阪口製作所
三洋化成工業株式会社 株式会社GSユアサ 株式会社JTB京都支店 株式会社島津製作所 株式会社松栄堂
株式会社太鼓センター 大和電設工業株式会社 株式会社SCREENホールディングス 株式会社塚腰運送
ツルタホールディングス株式会社 株式会社傳來工房 長津工業株式会社 株式会社長津製作所 株式会社ナベル
奈良信用金庫 NISSHA株式会社 日新電機株式会社 日東薬品工業株式会社 株式会社ハッピー 株式会社パルサス
株式会社FUKUDA 株式会社フクナガ 学校法人佛教教育学園 株式会社フラットエージェンシー
株式会社ブリッジコーポレーション 株式会社紅中 株式会社細尾 株式会社堀場製作所
株式会社マーケティングプリウス 宮建工業株式会社 村田機械株式会社 株式会社村田製作所
株式会社メンバーズゴルフサービス 学校法人龍谷大学 株式会社ローバー都市建築事務所

（五十音順・敬称略）

「認定NPO法人」取得のご報告

2019年4月1日、グローバルセンターは京都市より「認定NPO法人」の認定を受けました。こうしてまた一つ節目を迎えられましたのは皆様の支えあってこそです。ご協力ご賛同いただいております皆様、本当にありがとうございます。社会に認められた証としての「認定NPO」の誇りを持って、風通しの良い社会の創出を目指し持続可能な運営に邁進してまいります。これからもどうぞ応援のほどよろしくお願いいたします。



< 認定（・特例認定）NPO法人とは？ >

NPO法人のうち、所轄庁がその運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものにつき、一定の基準に適合したものとして認定された法人です。

全国の
NPO法人
約51,000法人

（京都市内では830法人中25法人）

認定・特例認定
NPO法人
約1,100法人
（全体の約2.1%）
※2019年6月末時点

2018年度正会員費総額

14件 / 1,308,000円

正会員一覧

（法人）京都商工会議所 一般社団法人京都経営者協会 一般社団法人京都経済同友会 公益社団法人京都工業会
京都中小企業家同友会 京都信用金庫 土山印刷株式会社

（個人）中谷 真憲 船橋 晴雄 佐野 亘 杉岡 秀紀 黒宮 一太 的場 信樹 村田 和代 前野 芳子 宮木 一平

（順不同・敬称略）

ご支援いただきありがとうございます！
 皆様のご寄附が日々の活動に活かされています

many
 thank&



- 参考図書、教材などを買って学生やスタッフの知識を深めることができました
- 学生のミーティングスペースやイベント会場を借りることができました
- 企業・大学・行政間の壁を越えた出会いの場を作ることができました
- 事業を通じて社会に還元するためのスタッフ研修や学びの機会が得られました

1.5~2カ月毎に
 不定期開催しています。
 ☑
 サポーターの皆様には
 メーリングリストで
 ご案内をお届けします。

Welcome to 「グローバルファンの集い」



Gathering of
 GLOBAL

FUNs

活動の
 認知拡大
 の場

もっと沢山の
 ファンと出会う
 ためのワクワク
 作戦会議の場

GCに関わる人
 同士の横断的
 な交流の場

京都を支える人
 材育成のための
 意見交換の場

多様な声が響き合う場

企業人、学生、社会人事業部（GCで活動したOB・OG）、GC理事、スタッフが一堂に集い、ワークショップを交えて会話を
 楽しむファンの集い。ざっくばらんな場に見えて、実は、「雇用のミスマッチ」に見られるような学生と社会の間にある様々
 なギャップを創造的に解決していくことを目指しています。学生と社会人の中にあるギャップ（認識、スキル、マインドな
 ど）を見つけ出し、共通する価値観を紡ぐ場になっています。

ALL THE LOVE FOR GLOBAL

“資本主義の負の側面に真正面から向き合う稀有な団体。
だからこそ損得抜きで集まる同志が沢山います。
GCの取組みはこれからの社会に必要な不可欠ですし、
携わる方々が「正直者が馬鹿を見ない」ような
経済環境を整えていく事が必要だと感じています”
一般社団法人自然経営研究会 代表理事 武井浩三

“Project-based learning is
nowhere more important than in Japan,
where education is traditionally
based on memorization and examination.
Glocal serves an important role
by not only promoting communication skills,
but also providing a space for students and
working people to interact and work together.
It was a pleasure to be invited
and play a small part”
京都造形大学 准教授 Eric Luong

“答えのない問題について考え、
対話から自ら答えを見つける事の大切さを学びました。
GCの活動を通じて出会った
普段と違ったコミュニティの人だからこそ、
本音で意見を交わすことが出来るのだと思います”
株式会社ナベル 業務部人事担当リーダー 横町美沙

“GCスタッフの人柄によるところが大きいですが、
良い意味で「遊び心」を持って仕事に向き合うようになり、
自分のまちがもっと好きになりました”
京丹后市役所 市長公室 政策企画課係長 三浦大作

“グローバルさんとの活動は会社を巻き込んだ活動に変化し、
関係を持った仲間たちは意識の変化が目に見えて現れました。
学生だけでなく組織、社会に対して本質的な変化に導く
インパクトを常に提供してくれます”
株式会社特殊高所技術 総務課長 青山太輔

“「意識次第で行動は変えられる」
これがGCにおける活動での学びの一つです。
物事の限界や壁を作っているのは自分。
それを越えていくのかを決めるのも自分。
これからあなたはどのような道を開拓しますか？”
京都橘大学 3回生 西本 優香里

“グローバルセンターが招聘される講師の先生方は
大変ユニークで興味深い話をしていただけるので、
いつも楽しく新しいことを学ばせていただいています。
若いスタッフが楽しそうに全力投球している姿をみると
応援しない訳には参りません”
京都経営者協会 専務理事 石津 友啓

“グローバルって何？
って考えるより、会って話をすればワクワクする。
そんな個性豊かな集団です。
変化の激しい時代に必要なのは、好奇心や冒険心！
未来志向の行動を続けるメンバーや学生さんと一緒に、
この地域を盛り上げていきたいです！”
京都信用金庫 常務理事 丹波寛志

“好きなことは好き、苦手なことは苦手と言える。
人間にとってそんな自然な環境が
今の社会では失われています。
GCは現代の開拓者として自然体な社会を作るために活動し、
重要な視点を私たちに投げかけてくれます”
株式会社大垣書店 総合企画部 課長代理 大垣守可

“活動を通じて、自分の意見を述べたり、
自分が出来ることを考え、
積極的に行動出来るようになりました。
何より活動を通じて100人以上の前でプレゼンをしたり、
何件もの企業を訪問するなど
他ではできないことが経験できました”
龍谷大学 1回生 吉川岳志

“My actions have changed
through joining activities at Glocalcenter.
I got an ability to throw myself into challenges
that I would not experience
if I stay in an ordinary school life.
I also became able to question things
and seek for my own answers”
同志社大学 1回生 三谷翔

(敬称略、2019年3月31日時点)

CONTACT

グローバル人材開発センター
GLOCAL
Glocal Human Resources Development Center



特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

〒602-8061 京都市上京区甲斐守町97番地西陣産業創造会館2階

🕒 平日9:30~17:30 (土日祝、夏期休暇期間、年末年始は休業)

☎ 075-411-5010

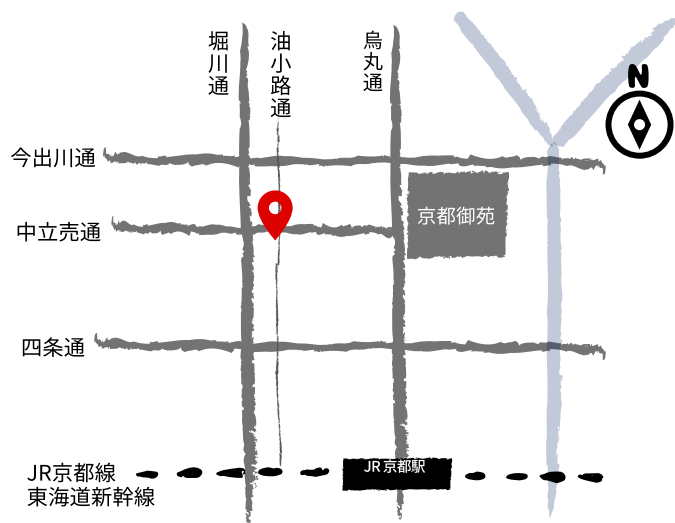
📠 075-411-5011

✉ info@glocalcenter.jp

97 KAINOKAMI-CHO, KAMIGYOKU, KYOTO CITY

+81 (0)75 411 5010

PLACE



ACCESS

- JR線ご利用の場合
JR 京都駅：市バス 京都駅前 (B1,B2のりば) から9系統、50系統「堀川中立売」下車、徒歩3分
- 阪急電車ご利用の場合
阪急 大宮駅 > 徒歩(200メートル) > 市バス 四条堀川から9系統 (西賀茂車庫ゆき) 12系統 (立命館大学前ゆき) 50系統 (立命館大学前ゆき) > 「堀川中立売」下車、徒歩3分
- 京阪電車ご利用の場合
京阪 四条駅：市バス 四条京阪 (南座前) から12系統 (立命館大学前ゆき) 「堀川中立売」下車、徒歩3分
- 京都市営地下鉄ご利用の場合
「今出川駅」下車 (6番出口より) 徒歩12分

WEBSIGHT



<http://glocalcenter.jp/>

SNS @glocalcenter



facebook



twitter







instagram

賛助会員ご入会・寄附のお願い

REQUEST FOR MEMBERSHIP AND DONATION OF SUPPORTING MEMBERS

あなたの支援が 未来を支える「グローバル人材」を育みます。

賛助会員	個人	 つき1 サポーター	月会費 1,000円 / 2,000円 / 3,000円
		 ねん1 サポーター	年会費 1口 5,000円～
	法人	 法人サポーター	年会費 1口 50,000円～
寄附	個人・法人	 ワンポイントサポーター	いつでも、好きな金額でご支援いただけます

スマホ・PCから
簡単にお手続き
ができます！



フォーム入力で
入会申込書への記入の
手間が省けます

お申込の手順

1. HP（ホームページ）にアクセス



サポーター制度について
NPO法人 グローカル人材開発センター
<http://glocalcenter.jp/supporters.html>



グローバルセンター サポーター

2. サポート方法&お支払方法を選択

- ・クレジット決済
WEB上で全ての手続きが完了します
- ・銀行振込
お申し込み後、下記口座へお振込みください
(次年度より口座引落としも可能です)

お申込みフォーム

3. お申し込み完了！

お申し込み完了の
自動配信メールが
届きます



【お振込先】

ミブ トクヒ) グローカルジンザイカイハツセンター
京都信用金庫 壬生支店 普通預金 0893272 特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

※恐れ入りますが、振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

ご不明な点や質問がございましたら、グローバルセンターまでお問い合わせください。

2019年4月より「認定NPO」の認定を受けたので

グローバルセンターへの賛助会員費・ご寄附は **税制優遇の対象**となります。

個人の場合

最大で寄附したお金の
約50%が戻ってきます

【3万円を当センターに寄附していただいた場合】



法人の場合

損金算入限度額の枠が拡大され
最大約30%の減税になります

【資本金1億円、所得金額2,000万円の場合】

